

東北中央自動車道の整備に伴う 交通状況の変化と整備効果

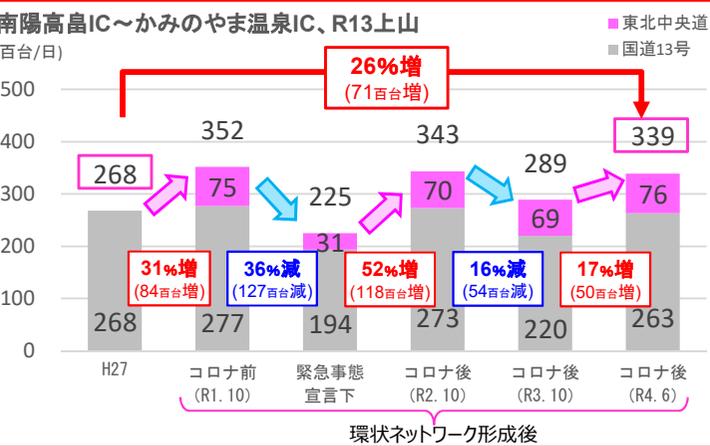
国土交通省 山形河川国道事務所

高速道路の環状ネットワークの形成による広域交通の転換

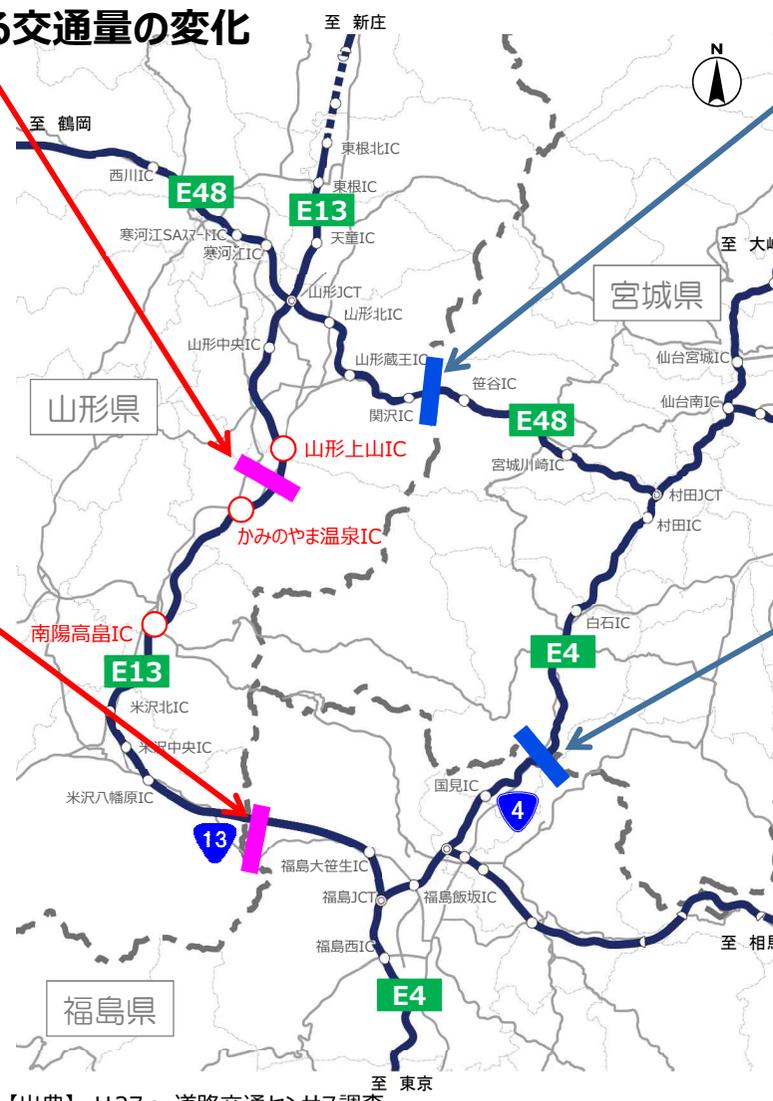
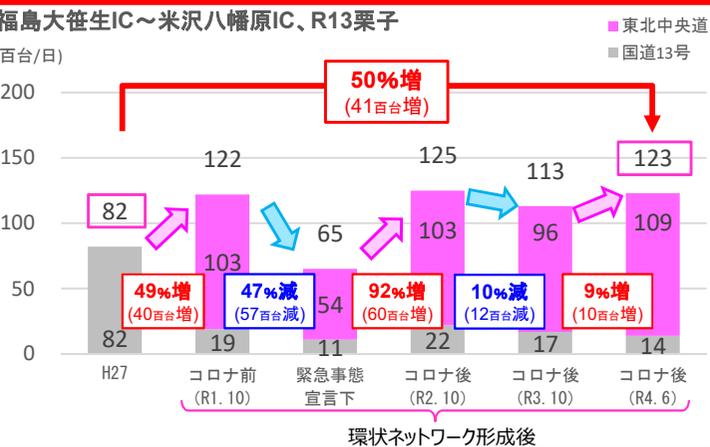
- 東北中央道（南陽高畠IC～山形上山IC）がH31.4に開通し、高速道路の環状ネットワークが形成されたことにより、**福島・山形県境部の断面交通量は約41百台/日増加**。南陽高畠IC～かみのやま温泉IC間は**約71百台/日増加**。
- 東北道の**福島・宮城県境部の断面交通量は約67百台/日**、山形道の**宮城・山形県境部の交通量は約27百台/日減少**。
- 福島以南～山形以北の広域交通ルートとして、昨年度に引き続き、東北中央道利用が増加傾向。

■ 高速道路の環状ネットワークの形成による交通量の変化

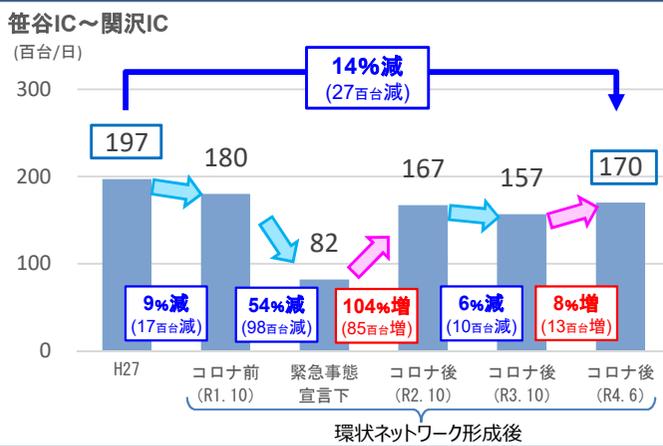
東北中央道・国道13号



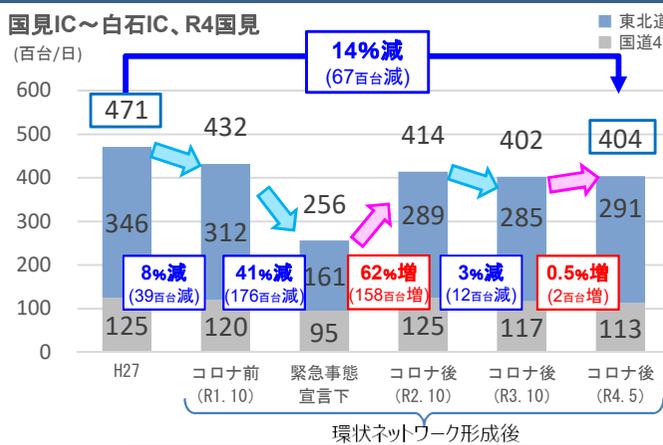
東北中央道・国道13号 (福島・山形県境)



山形道 (宮城・山形県境)



東北道・国道4号 (福島・宮城県境)



【出典】 H27： 道路交通センサス調査

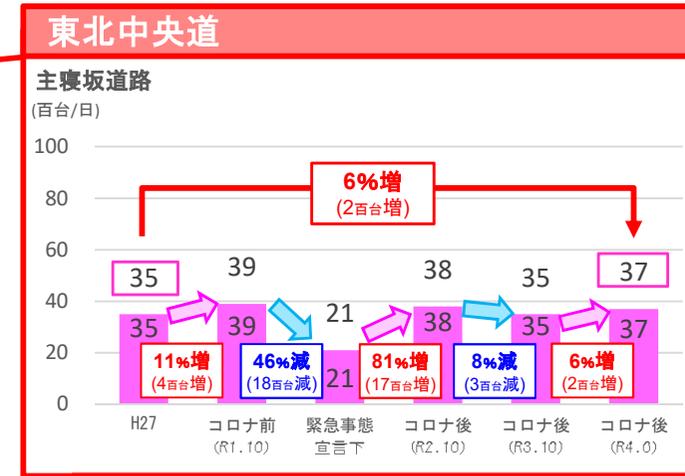
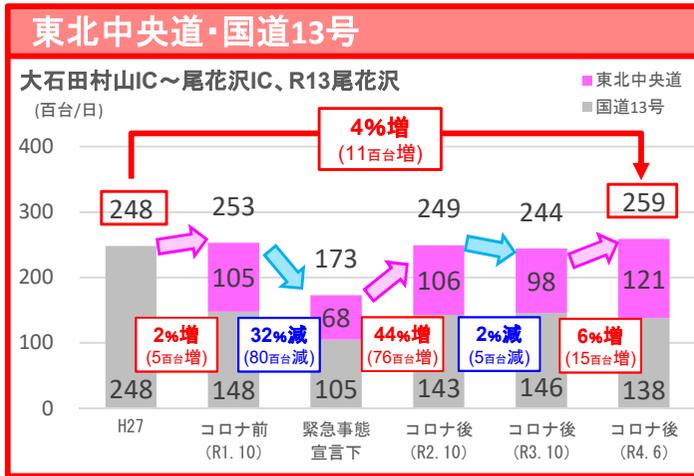
その他： NEXCO東日本提供交通量、国土交通省常時観測トラフィックカウンターデータ
(コロナ前：R1.10.日平均値、緊急事態宣言下：R2.4.16～5.14、コロナ後：R2.10.日平均値、R3.10日平均値、R4.6日平均値)

※R4年度は6月のデータに欠損があるため、5月の交通量を参照

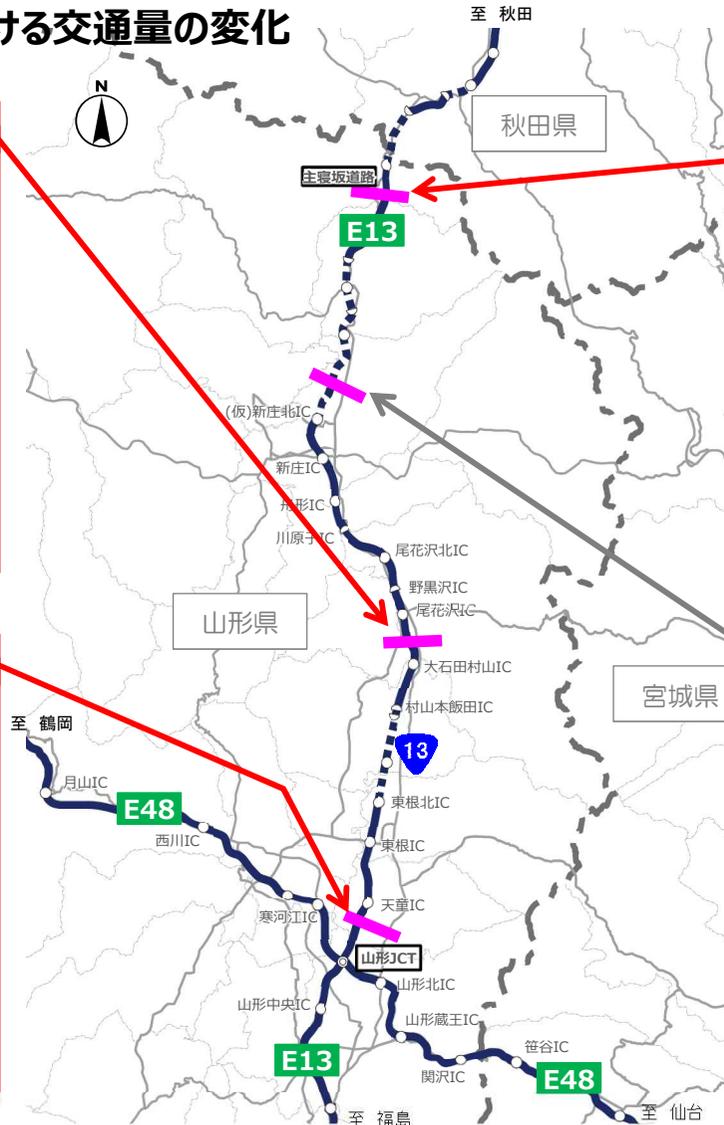
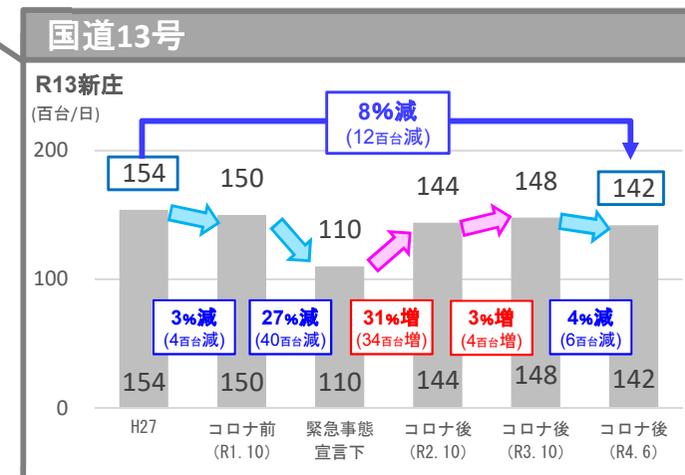
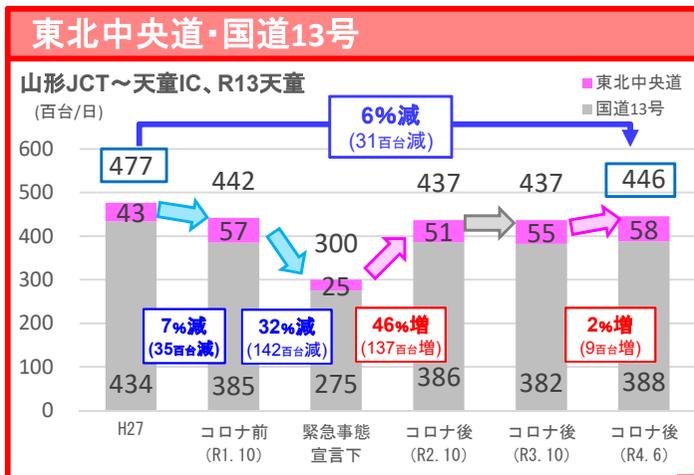
山形JCT以北における東北中央道・国道13号の交通量の変化

- 東北中央道のミッシングリンクが残る山形JCT以北では、交通量が概ね横ばいの状況にあるが、東北中央道の開通済区間では増加傾向にある。
- 県北に行くほど交通量は減少し、秋田県境に近い主寝坂道路では、50百台/日を下回っている。

■ 東北中央道のミッシングリンク区間における交通量の変化



※R4.6はデータに欠損があるため、隣接箇所（中田）の交通量を参照



【出典】 H27： 道路交通センサス調査

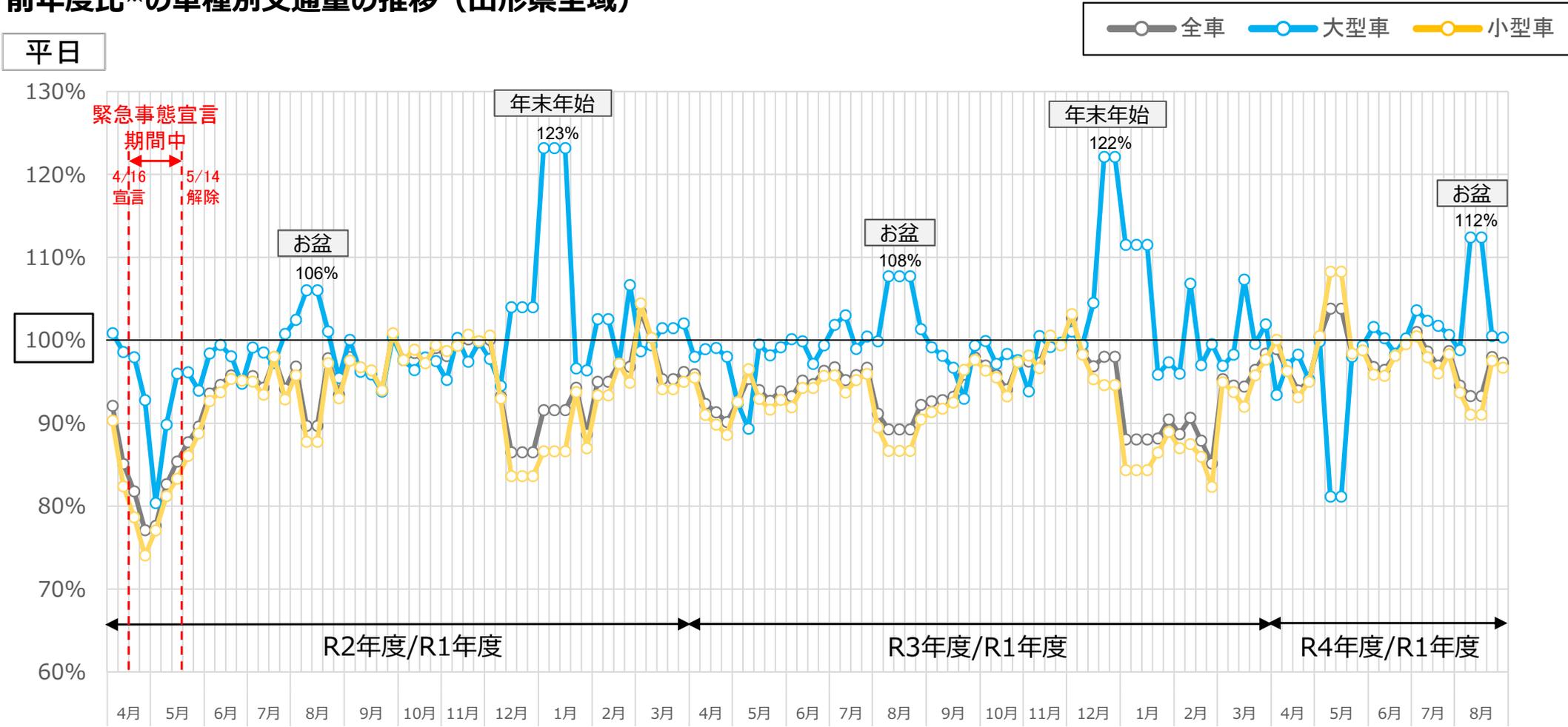
その他： NEXCO東日本提供交通量、国土交通省常時観測トラフィックカウンターデータ

(コロナ前： R1.10.日平均値、緊急事態宣言下： R2.4.16～5.14、コロナ後： R2.10.日平均値、R3.10日平均値、R4.6日平均値)

新型コロナウイルスの影響による山形県内の交通量の変化【平日】

- 緊急事態宣言解除以降、小型車はコロナ前と同程度の水準まで回復して推移。
- 大型車はコロナ前と同程度の水準まで回復し、年末年始や8月のお盆の時期はコロナ前の水準を上回る交通量。
- お盆時期の交通量は直近で大型・小型車共にコロナ以降最大となり、回復傾向。

前年度比*の車種別交通量の推移（山形県全域）

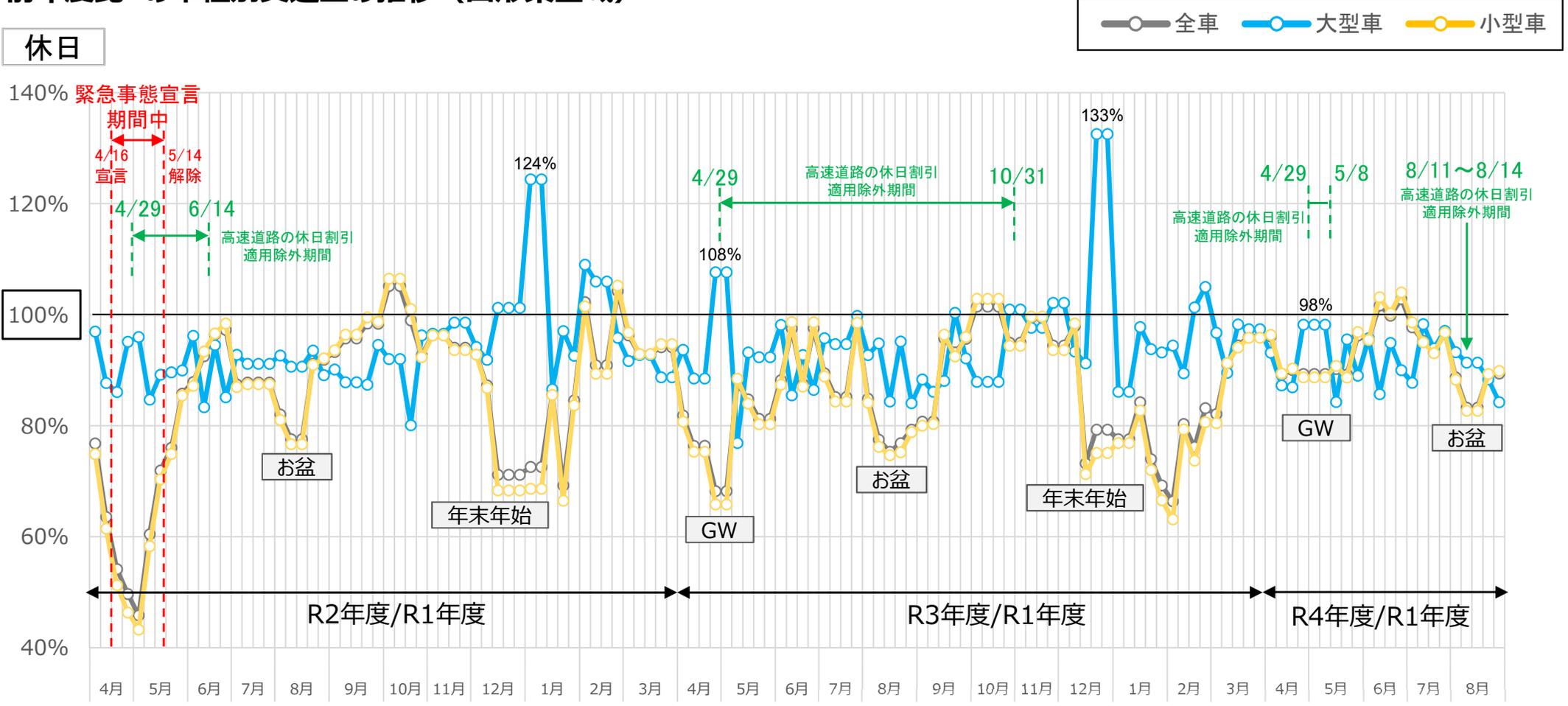


【出典】 トラカンデータより算出（県内直轄国道48基のうちデータ欠損がある箇所を除く平均値）
 ※車種別交通量は、コロナ前同期間(R1年度)を100%とした際の比較
 日平均交通量比 (R2・R3・R4 /R1)

新型コロナウイルスの影響による山形県内の交通量の変化【休日】

- 緊急事態宣言期間以降、回復傾向で推移したものの、年末年始や8月のお盆の時期は、依然としてコロナ前に比べて小型車交通量が大幅に減少。
- 一方で、大型車はコロナ前をやや下回る水準で推移しているものの、年末年始等でコロナ前を上回る水準まで増加。
- 直近では、年末年始の交通量が大型・小型車共にコロナ以降最大となる一方、GWの大型車交通量が前年より減少。

前年度比*の車種別交通量の推移（山形県全域）

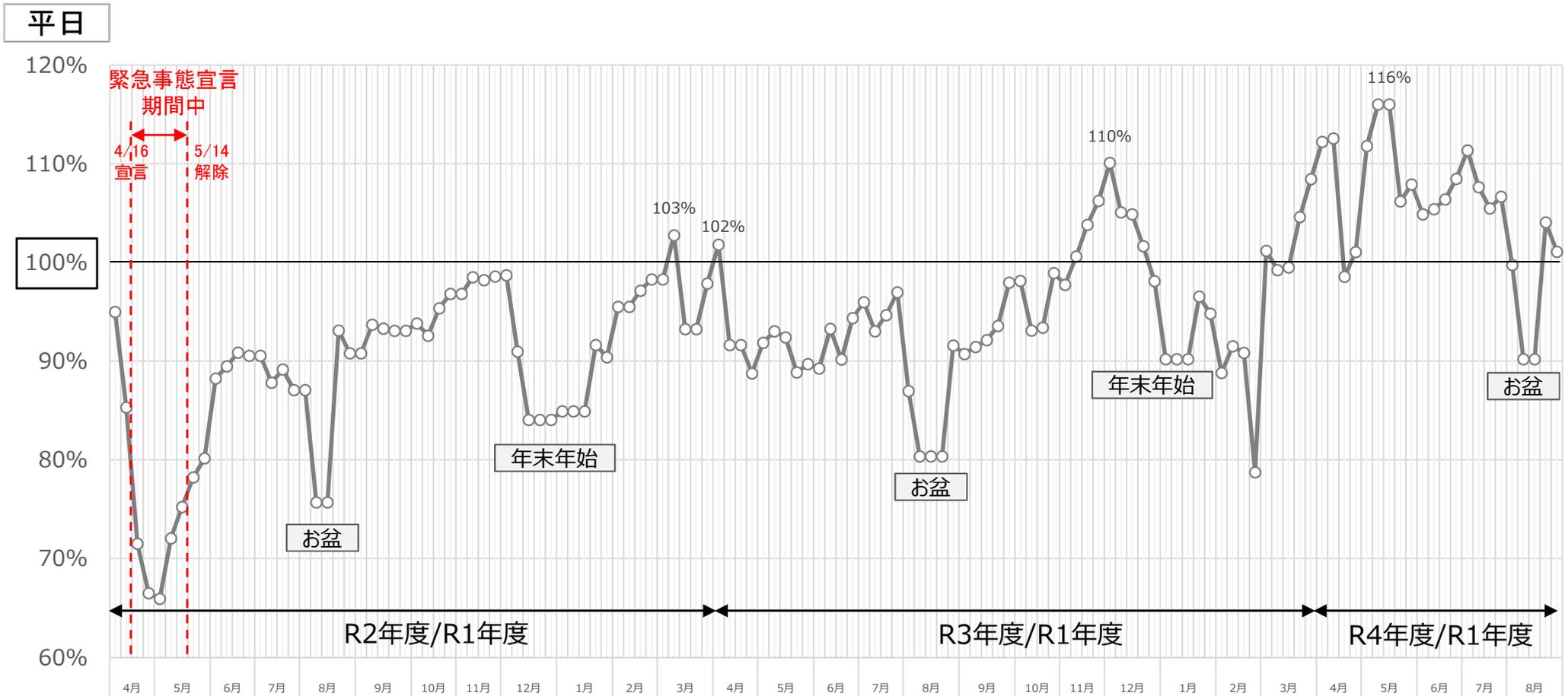


【出典】 トラカンデータより算出（県内直轄国道48基のうちデータ欠損がある箇所を除く平均値）
 *車種別交通量は、コロナ前同期間(R1年度)を100%とした際の比較
 日平均交通量比 (R2・R3・R4 /R1)

新型コロナウイルスの影響による東北中央道の交通量の変化【平日】

- 東北中央道の交通量は、緊急事態宣言解除以降もコロナ前を下回る水準で推移していたが、R4年3月後半以降はほぼ全ての期間でコロナ前を上回る状況。
- 年末年始やお盆時期は、緊急事態宣言直後に全車で約1割から2割以上減少していたが、年々回復傾向にある。

■前年度比※の交通量の推移（東北中央道(山形県内)のみ、全車）



【出典】トランデータより算出（東北中央道の17基の平均値(欠損がある場合は対象期間・対象箇所を除いて集計)）
 ※車種別交通量は、コロナ前同期間(R1年度)を100%とした際の比較
 日平均交通量比 (R2・R3・R4 / R1)

新型コロナウイルスの影響による東北中央道の交通量の変化【休日】

- 東北中央道の交通量は、緊急事態宣言解除以降も依然としてコロナ前を下回る水準で推移。
- 年末年始や8月のお盆期間、5月のGW等で、コロナ前の交通量を大きく下回るが、直近の同時期ではコロナ以降で最大となっており、回復傾向。

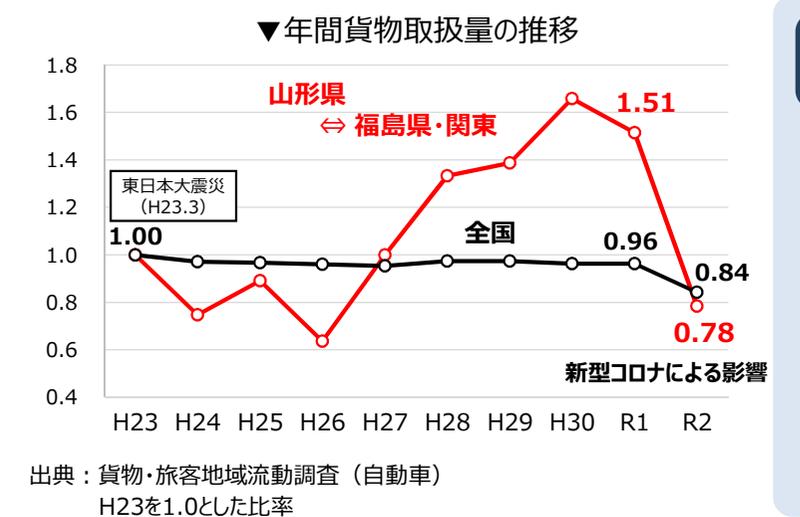
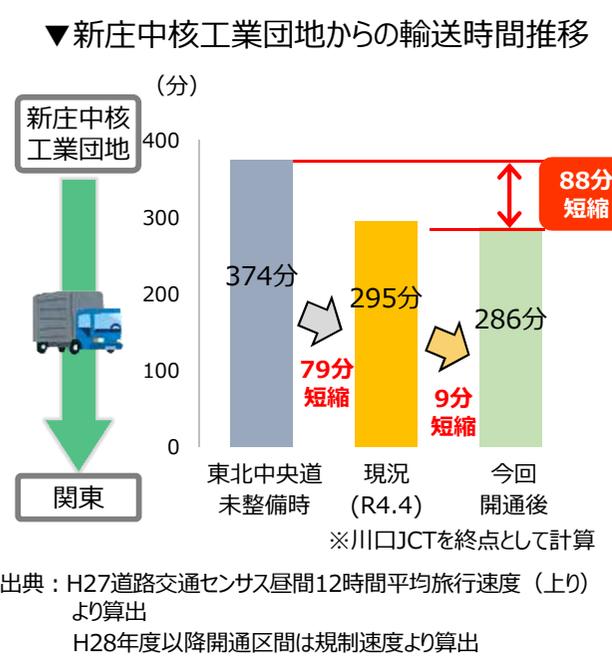
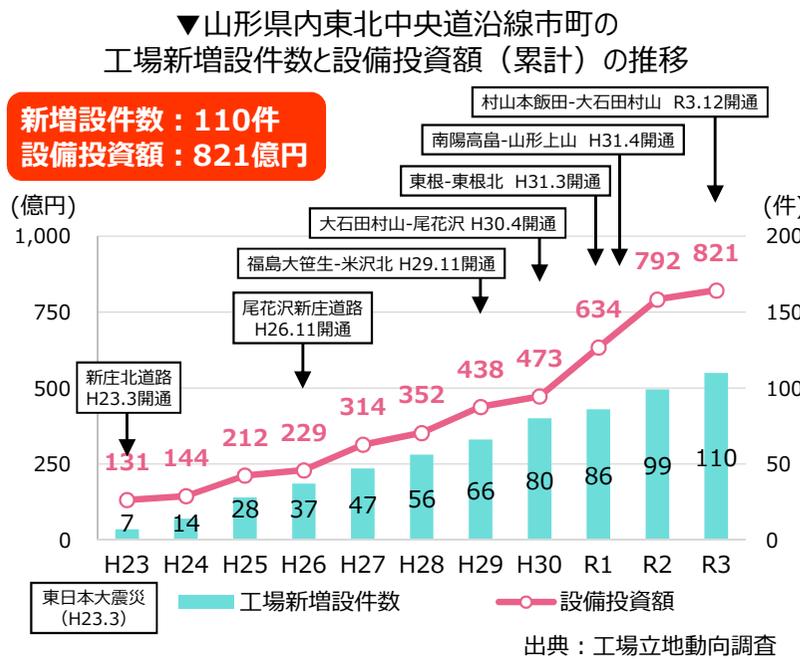
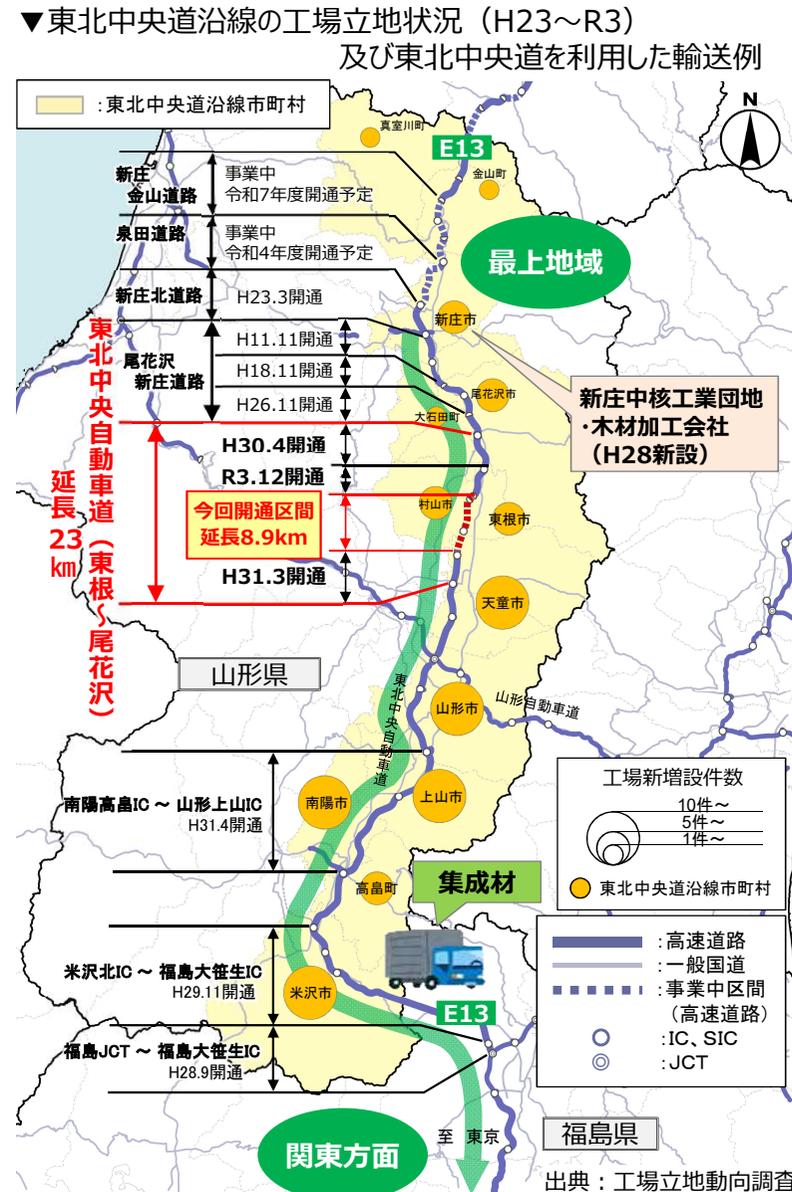
■ 前年度比※での交通量の推移（東北中央道(山形県内)のみ、全車）



【出典】 トラカンデータより算出（東北中央道の17基の平均値(欠損がある場合は対象期間・対象箇所を除いて集計)）
 ※車種別交通量は、コロナ前同期間(R1年度)を100%とした際の比較
 日平均交通量比 (R2・R3・R4 /R1)

地域産業の活性化を支援

- 東北中央自動車道の整備進捗とともに、沿線自治体における工場新增設件数や設備投資額が増加。
- 新庄中核工業団地では関東を主力納品先とする企業が新たに立地するなど、近年、山形県と福島県・関東間の貨物取扱量が増加傾向。
- 今回の開通で最上地域から関東方面まで高速道路で繋がり、所要時間の短縮や定時性の向上により物流効率化に寄与。



新庄中核工業団地の立地企業（木材加工）の声

- 森林資源が豊富で県として林業・木材産業に力を入れている山形県の北部に工場をH28年度に新設した。
- 高速道路のインターチェンジやバイパスが近く、**流通の便が非常によい**場所である。
- 主力納品先は関東圏を中心とした東日本であることから、東北中央道の開通により**製材品輸送の効率化が期待**できる。

出典：ヒアリング結果(R4.7)

地域救急医療活動を支援

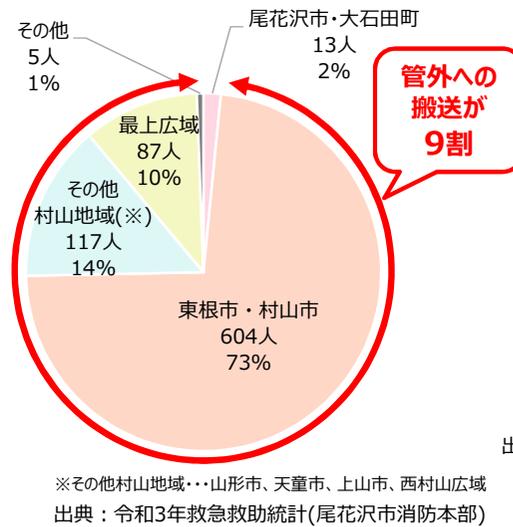
- 尾花沢市・大石田町には二次以上の救急医療施設が無く、市町外への搬送が9割を占める。
- 遠方の病院へ搬送するため、尾花沢市消防本部は搬送時間が県内最長となっており、県平均より約17分長い。
- 今回開通区間を含む東北中央自動車道の整備により、救急搬送の迅速性・安定性が向上し、地域救急医療活動を支援。

▼東北中央道を利用した救急搬送ルート

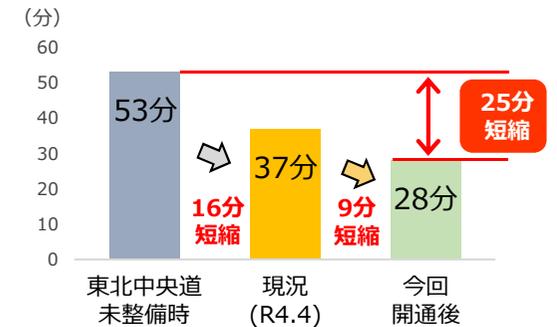


出典：令和3年救急救助統計(尾花沢市消防本部)

▼尾花沢市消防本部管内からの搬送割合



▼救急搬送時間の変化 (尾花沢市⇒山形県立中央病院)



出典：H27道路交通センサ昼間12時間平均旅行速度(上り)より算出
H28年度以降開通区間は規制速度より算出

▼消防本部別収容所要時間

(消防への通報から収容医療機関の医師引渡しまでに要する時間)



尾花沢市消防本部の声

- 東根～尾花沢間の開通により、山形市方面への搬送に東北中央道を利用することで、**病院への早期収容**や、一般道の交差点で**事故危険性の低下**が期待されます。
- また、沿線の北村山公立病院へのアクセスにおいてもダブルネットワークが形成されるため、**状況に応じた経路選択が可能**となり、迅速性や安定性の向上が期待されます。



出典：ヒアリング結果 (R4.7)

沿線地域の観光振興を支援

- 山形県は全国有数のそば処であり、今回開通区間沿線には、おくのほそ道最上川そば三街道としてそば屋が多数連ねる。
- 各そば街道への観光入込客数は増加傾向であり、道路ネットワークの整備とともに遠方からの観光入込客数が増加傾向。
- 今回開通区間を含む東北中央自動車道の整備により、アクセス性が向上し、観光客の増加による観光振興に期待。

▼東北中央道沿線のおくのほそ道最上川そば三街道位置図



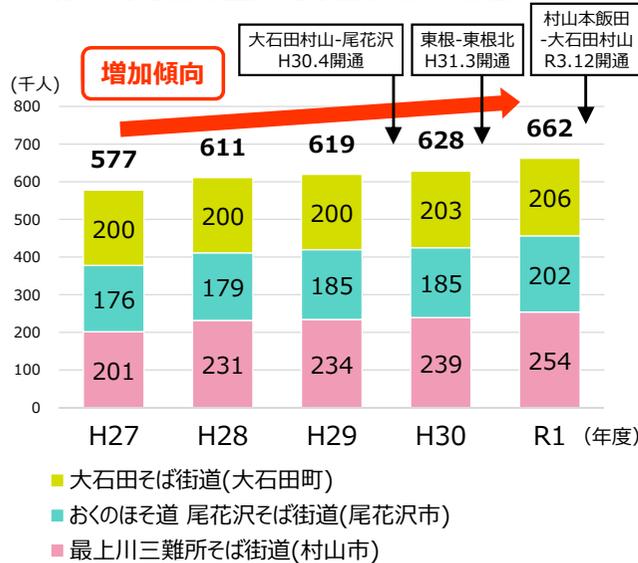
▼そば収穫量全国上位10都道府県



▼おくのほそ道最上川そば三街道周辺地区における県外客の居住地別滞在人口の伸び



▼おくのほそ道最上川そば三街道入込客数



沿線地域の観光関係者の声

- 東北中央道の整備が進むにつれて、福島県・関東方面との所要時間が縮まり、**福島県や関東方面からの入込客数が増えている**と実感している。
- 今回の開通により「**首都圏から尾花沢まで高速道路で1本**」などPRすることができ、PR活動の効果拡大も期待される。
- 福島県や関東方面からの**更なる観光客増加に期待**している。

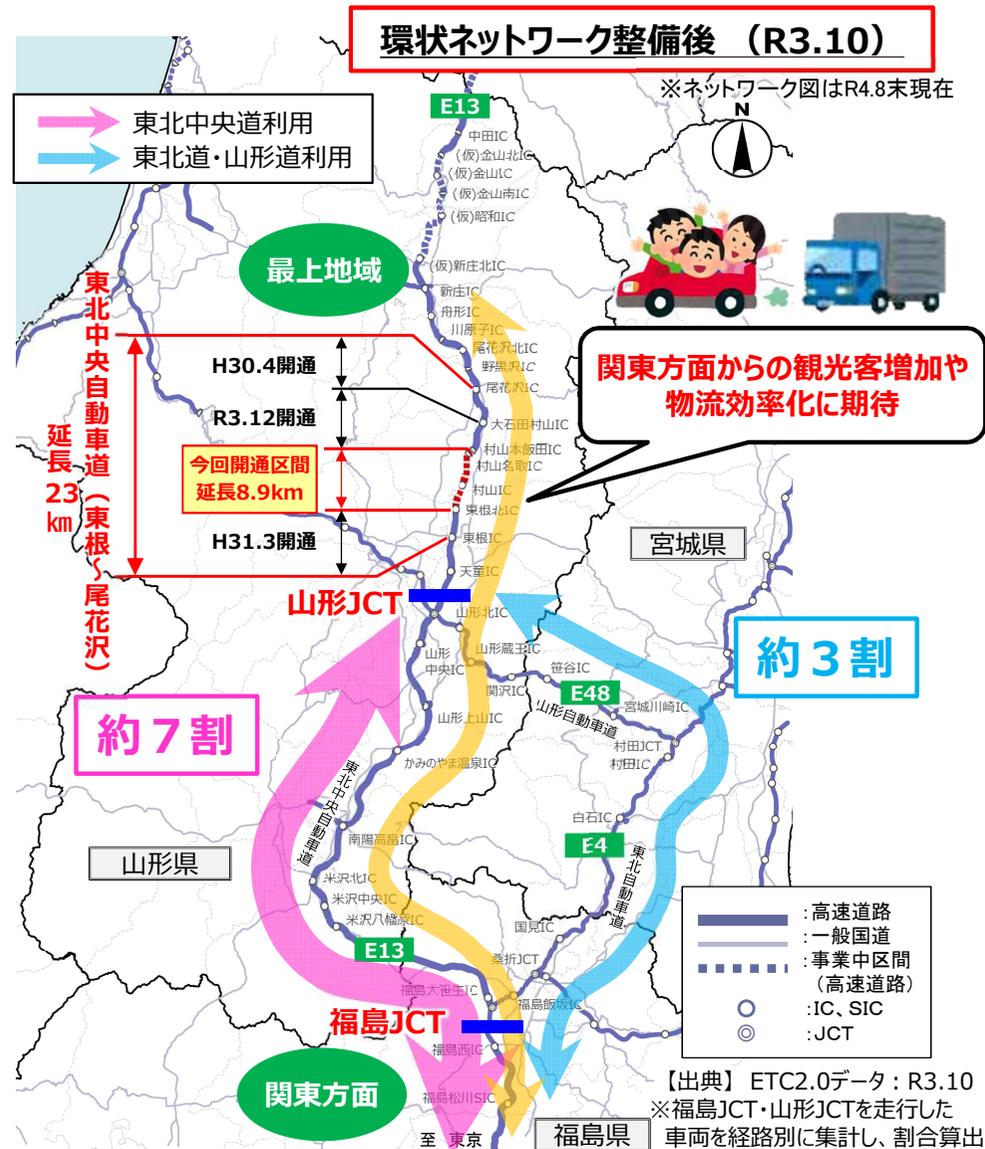
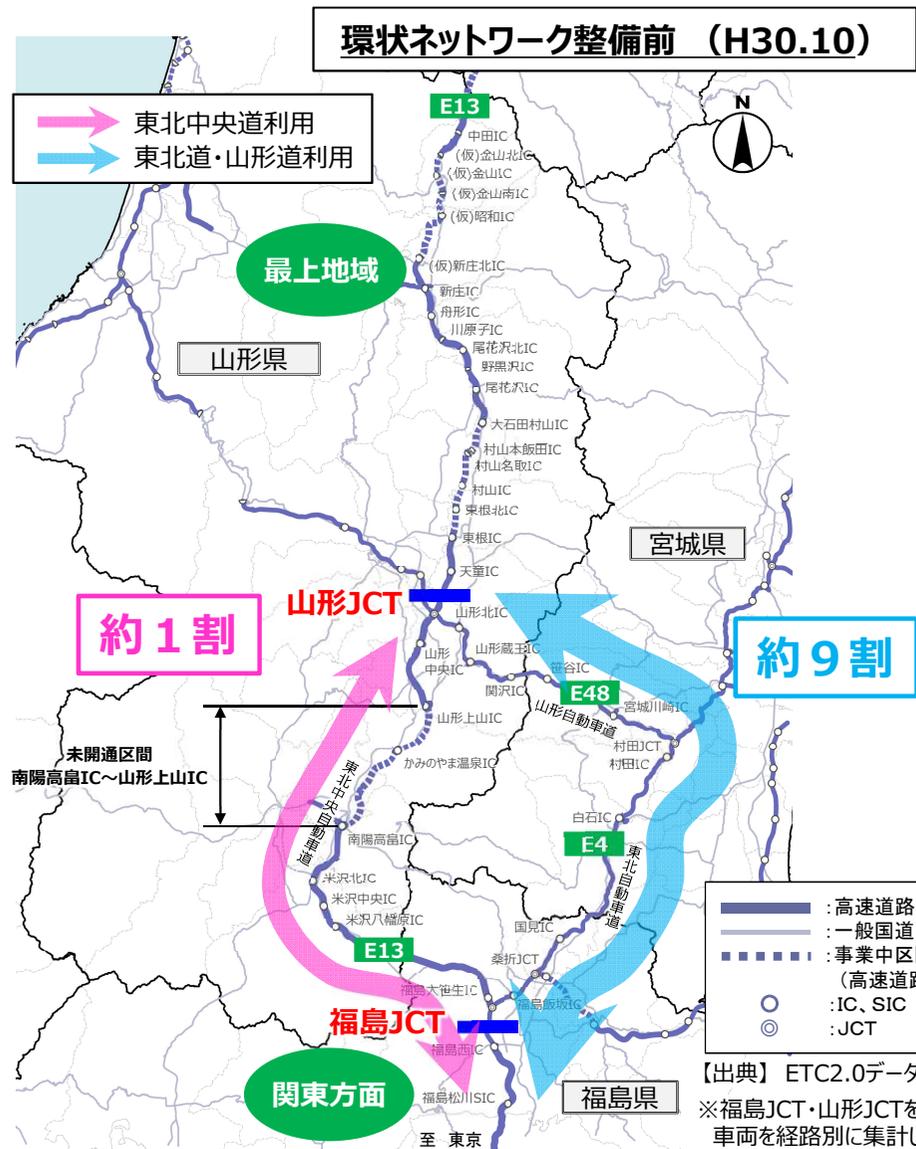
出典：ヒアリング結果(R4.7)



東北中央自動車道の整備に伴う交通状況の変化

- 平成29年度に福島～米沢間が開通、平成31年度には南陽高畠IC～山形上山IC間が開通。
- 福島～山形間の高速道路は、東北自動車道経由の宮城県回りと東北中央自動車道の山形県回りの2ルートが選択可能に。
- 今回の開通で最上地域から関東方面まで高速道路で繋がり、関東方面から山形県へ訪れる観光客の増加や、物流の効率化が図られるなど、山形県の経済面への波及効果も期待。

■東北中央道の広域ルート転換状況



■ 今年度の分析

- ・過年度に続き、新型コロナウイルスの影響による交通量の変化を継続的に検証
- ・東北中央道整備(東根～尾花沢間及び泉田道路)の進展に伴い地域に期待されるストック効果として、産業面、救急医療面、観光面で分析・整理

□ 次年度の分析

次年度も引き続き、東北中央道整備による効果や利活用の状況を分析し、協議会の場で共有・議論をすることにより、協議会構成機関の取組みを支援。

特に、東北中央道(東根～尾花沢間及び泉田道路)の開通により、首都圏から最上地域までがつながり、ネットワーク効果の発現が期待されることから、実際に生じた地域の経済的变化について、広域的な視点における効果等を分析・報告予定。